

事務事業評価表 平成23年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実
施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造
基本事業 自主的市民文化 芸術活動の育成・支援

事業名 江別音楽協会補助金 [0485]

部名	教育部	事業開始年度	平成9年度	実施計画事業認定	非対象
課名	生涯学習課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果			
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) ・江別音楽協会	手段	(事務事業の内容、やり方、手段) 江別音楽協会が市内の中学生から一般までの楽器奏者を対象に行う団体コンクール事前研修会・夏の演奏会「冬の演奏会」「アンサンブルコンテスト」の開催に必要な事業費の一部を補助する。
	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) ・楽器の基本的な奏法、音楽的表現、高度な演奏技術などを習得し継承することにより 市内の学校や音楽団体の水準向上と人材育成を図る。 ・上記の成果を広く市民に向けて発表することにより 市民の音楽文化に対する関心を高める。		

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	構成人員数	人	524	480	525	480
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	900	900	900	900
活動指標2						
成果指標1	事業参加者数	人	1,710	1,600	2,089	1,655
成果指標2	事業への来場者数	人	2,162	1,924	2,704	2,043
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	900	900	900	900
正職員人件費 (B)		千円	418	415	403	407
総事業費 (A) + (B)		千円	1,318	1,315	1,303	1,307

費用内訳	
22年度	負担金 補助及び交付金 900千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始 背景		事業を 取り巻く 環境変化	江別音楽協会は、市内11校の吹奏楽部及び顧問により平成3年に発足した江別吹奏楽研究協議会の組織や事業内容を発展させ、吹奏楽部門に限らず合唱・弦楽器・邦楽などの音楽分野を取り入れた総合的な音楽集団として、江別の音楽文化の振興を図ることを目的に、平成9年より現在の名称に変更した。 しかし、事業の推進には資金が必要となるが、会費と受講料に依存している現状では十分とは言えないことから、同協会が行う事業に必要な経費の一部を補助するものである。
------------	--	---------------------	---

22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由・
根拠は？

民間組織による芸術文化事業等の拡充と活動の活発化が目的であるので、妥当である。

(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由・
根拠は？

音楽協会単独では資金的に難しい事業の開催を支援することは、市民の音楽活動の振興とその活性化につながるため、貢献度は大きい。

(3) 計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由・
根拠は？

16年度より事業内容を見直し、「団体コンクール事前研修会」を「夏の演奏会」とタイアップして行った結果、江別音楽協会事業の研修面での充実が図られ、協会事業全体の参加者数及び来場者数の増加に結びついた。

(4) 成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

市内の学校や音楽団体の水準向上と人材の育成を図る事業に自主的に取り組む民間組織数はまだ少なく、音楽協会の事業が定着することにより組織数・事業数ともに増加することが期待できる。

(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある

ない

理由・
根拠は？

これまで市民芸術祭事業の一環として行っていた「楽器クエック」補助金を、18年度より江別音楽協会補助金と統合し、経費の節減を図った。
17年度両事業補助金計：990千円 統合後計：900千円